

地域特産種量産放流技術開発（要約） （タイワンガザミ）

與那嶺盛次・安井理奈*

タイワンガザミの資源増加を図るため、人工種苗の放流技術開発や資源生態調査等を実施した。

調査結果は平成7年度地域特産種量産放流技術開発事業総合報告書に報告しているので、ここでは要約のみを記した。

1. 今年度は与那城町海中道路北側の干潟水域に平均全甲幅7~29mmの稚ガニ14万尾（体内標識3,357尾）を放流した。台風のため放流尾数を調べずに放流した事例があった。
2. 放流稚ガニは、放流した夜には放流区内の密度が急激に減少し、数日間でほとんど逸散した。
3. 食害試験の結果、稚ガニがニセクロホシフエダイに捕食される割合は、全甲幅22mm以上で少なくなった。
4. 体内標識飼育試験の結果、全甲幅25~30mmから標識脱落率と死亡率が低下した。脱皮2回以降の標識脱落はほとんどなかった。
5. 天然稚ガニの定着は2~12月までみられ、5月と9月にモードがあり、前者より後者の定着群が多かった。干潟では全甲幅20mm以下の稚ガニが多かった。
6. 与那城町漁協に水揚げされたタイワンガザミは雌雄とも夏場に小型個体が多く、冬場に大型個体が多かった。
7. 与那城町漁協と周辺4漁協の1995年のタイワンガザミ漁獲量は0.6~16.2トンで、与那城町漁協が最も多かった。
8. 与那城町漁協のタイワンガザミ漁獲量は周辺4漁協に顕著な増加傾向がみられないのに対して、放流開始後増加傾向にあり、1989年の5.5トンから約3倍になった。
9. 与那城町漁協と周辺4漁協の1995年のタイワン

ガザミ平均単価は470~807円であった。与那城町漁協は522円の4位で、漁獲量は増加しているが、平均単価は低下している。

10. 与那城町漁協では1994年より漁獲努力量が減少したにもかかわらず、漁獲量・CPUEが増加していることから、与那城海域のタイワンガザミ資源は増加したと考えられる。
11. 与那城海域のタイワンガザミ資源の増加は放流効果がでている可能性もあるが、与那城漁協のみ抱卵ガニの再放流を実施しており、その効果がでている可能性もある。今後の調査で明らかにする必要がある。

*：現所属 水産振興課